



小名浜港に現れたコブハクチョウ。いわきにも定着している

会田さんがASP 「チャンピオン」に 5月、いわやで大会

アジア人女性のミス・ミセスコンテスト「Asia Supreme Pageant」世界大会が昨年十一月、マレーシアで開かれ、いわき市葉山のエステサロンオーナー、会田由希子さん（三十九）がミス・ミセス部門（二十と四十五歳）でインターナショナル・チャンピオンに選ばれた。会田さんは、五月に開催される福島大会のエリアディレクターを務める。

同コンテストは、アジア人女性の内外面を磨き、自立を後押ししようと、二〇一四（平成二十六）年にスタート。一般家庭の主婦からも出場している

ことが特徴で、昨年初めて福島大会が実施された。

世界大会では同部門にアジア各国から二十人が出場。ビューティーキャンプを経て、大会当日は民族衣装の審査などが行われた。

「自分と向き合う半年間は苦しかったが、自分を信じるということが身についた」と、大会

を振り返った会田さん。今年も福島大会に向け、「コンテストを知って、出場してもらい、成長できる過程をゴールにしてほしい」と話していた。

福島大会は五月三十一日、鹿島町、パレスいわやで開かれる。問い合わせは、大会事務局 aspiapan.fukushima@gmail.com まで。



世界大会でチャンピオンに輝いた会田さん

コブハクチョウ 小名浜港でゆったり “北へ帰らないよ”

冬はハクチョウが飛来する季節。二月には「北帰行」が始まるが、中には地域に定着している種類もいて――。

一月一日午前八時五十分ごろ、小名浜港でハクチョウ一羽

地域に定着も

が確認された。くちばしがオレンジ色で、その根元に黒いこぶがあり、欧州などに棲（せい）息する、体長一・五メートルほどの「コブハクチョウ」とみられる。

日本野鳥の会いわき支部によると、コブハクチョウは外来種だが、国内で繁殖、定着。飼い主の元から逃げ出したり手放されたりしたことが原因で、いわき市内では、鮫川などで一年を通して見られる。飛来する種類と異なり、群れずに一羽でいることも珍しくないという。

小名浜港東側の漁港区では、波に乗ってプカプカと移動しながら、浅瀬で優雅に藻の食事。時折毛づくろいにいそしみ、新春の陽光を受けた体をゆったりと整えていた。